

表12:ICD-10診断による主要な精神障害の30日有病率(性別)

	男性(1871名)		女性(2263名)		合計(4134名)		$\chi^2$
	%	人数	%	人数	%	人数	
気分(感情)障害							
重症うつ病エピソード	0.1	2	0.2	5	0.2	7	0.8
中等症うつ病エピソード	0.0	0	0.1	2	0.0	2	1.7
軽症うつ病エピソード	0.0	0	0.0	1	0.0	1	0.8
全てのうつ病エピソード	0.1	2	0.4	8	0.2	10	2.6
躁病エピソード	0.1	1	0.2	4	0.1	5	1.3
軽躁病	0.0	0	0.0	1	0.0	1	0.8
気分変動症	0.1	2	0.2	4	0.1	6	0.3
いずれかの気分(感情)障害	0.3	5	0.7	16	0.5	21	3.9 *
神経症性・ストレス性障害							
パニック障害	0.3	5	0.2	5	0.2	10	0.1
パニック障害をともなわない広場恐怖	0.3	6	0.4	8	0.3	14	0.0
社会恐怖	0.7	14	0.4	9	0.6	23	2.3
特定の恐怖症	2.2	41	3.0	69	2.7	110	2.9
全般性不安障害	0.2	4	0.3	6	0.2	10	0.1
外傷後ストレス障害	0.1	2	0.3	7	0.2	9	1.9
いずれかの神経症性・ストレス性障害	3.3	62	4.0	91	3.7	153	1.4
精神作用物質による精神および行動上の障害							
有害な使用-アルコール	0.2	4	0.1	2	0.1	6	1.1
アルコール依存症	0.1	1	0.0	0	0.0	1	1.2
有害な使用-薬物	0.0	0	0.0	0	0.0	0	-
薬物依存症	0.0	0	0.0	0	0.0	0	-
いずれかの精神作用物質による障害	0.3	5	0.1	2	0.2	7	1.9
いずれかの精神障害	3.7	69	4.5	102	4.1	171	1.7

\*  $p < 0.05$ , \*\*  $p < 0.01$ ,  $\chi^2$ 検定(人数が5人以下のセルを含む比較は参考値)

注) 重みづけを考慮していないため、外傷後ストレス障害、精神作用物質による精神および行動上の障害全て、いずれかの精神障害の頻度は過小評価している可能性がある。

表13:ICD-10診断による主要な精神障害の30日有病率(年齢層別)

	20-34歳 (N=683)		35-44歳 (N=617)		45-54歳 (N=785)		55-64歳 (N=844)		65歳以上 (N=1205)		合計 (N=4134)		$\chi^2$
	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	
<b>気分(感情)障害</b>													
重症うつ病エピソード	0.1	1	0.0	0	0.3	2	0.4	3	0.1	1	0.2	7	3.7
中等症うつ病エピソード	0.0	0	0.0	0	0.1	1	0.0	0	0.1	1	0.0	2	2.4
軽症うつ病エピソード	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.1	1	0.0	0	0.0	1	3.9
全てのうつ病エピソード	0.1	1	0.0	0	0.4	3	0.5	4	0.2	2	0.2	10	4.6
躁病エピソード	0.3	2	0.2	1	0.1	1	0.1	1	0.0	0	0.1	5	3.2
軽躁病	0.0	0	0.0	0	0.1	1	0.0	0	0.0	0	0.0	1	4.3
気分変調症	0.0	0	0.2	1	0.5	4	0.1	1	0.0	0	0.1	6	10.0 *
いずれかの気分(感情)障害	0.4	3	0.3	2	1.0	8	0.7	6	0.2	2	0.5	21	8.0
<b>神経症性・ストレス性障害</b>													
パニック障害	0.3	2	0.3	2	0.5	4	0.0	0	0.2	2	0.2	10	4.9
パニック障害をともなわない広場恐怖	1.2	8	0.3	2	0.1	1	0.2	2	0.1	1	0.3	14	17.7 **
社会恐怖	1.2	8	1.0	6	0.4	3	0.2	2	0.3	4	0.6	23	9.7 *
特定の恐怖症	2.9	20	3.4	21	3.2	25	2.4	20	2.0	24	2.7	110	4.7
全般性不安障害	0.6	4	0.5	3	0.0	0	0.2	2	0.1	1	0.2	10	8.0
外傷後ストレス障害	0.4	3	0.8	5	0.1	1	0.0	0	0.0	0	0.2	9	16.3 **
いずれかの神経症性・ストレス性障害	5.1	35	5.0	31	4.2	33	2.7	23	2.6	31	3.7	153	14.0 **
<b>精神作用物質による精神および行動上の障害</b>													
有害な使用-アルコール	0.4	3	0.2	1	0.0	0	0.1	1	0.1	1	0.1	6	5.6
アルコール依存症	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.1	1	0.0	0	0.0	1	3.9
有害な使用-薬物	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	-
薬物依存症	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	-
いずれかの精神作用物質による障害	0.4	3	0.2	1	0.0	0	0.2	2	0.1	1	0.2	7	5.0
いずれかの精神障害	5.4	37	5.0	31	5.1	40	3.4	29	2.8	34	4.1	171	12.2 *

\* p < 0.05, \*\* p < 0.01,  $\chi^2$ 検定(人数が5人以下のセルを含む比較は参考値)

注) 重みづけを考慮していないため、外傷後ストレス障害、精神作用物質による精神および行動上の障害全て、いずれかの精神障害の頻度は過小評価している可能性がある。

表14. 基本属性とDSM-IV診断による精神障害の生涯診断との関連: オッズ比と95%信頼区間

性別	人数	いづれかの気分障害		いづれかの不安障害		いづれかの物質関連障害		いづれかの精神障害	
		オッズ比	95% 信頼区間 下限 上限	オッズ比	95% 信頼区間 下限 上限	オッズ比	95% 信頼区間 下限 上限	オッズ比	95% 信頼区間 下限 上限
男性	(1733)	1.00	-	1.00	-	1.00	-	1.00	-
女性	(2118)	2.39	1.79 3.18	1.53	1.12 2.10	0.19	0.12 0.30	1.09	0.89 1.34
年齢層									
20-34歳	(638)	1.76	1.02 3.02	3.13	1.69 5.77	2.14	0.99 4.63	2.19	1.47 3.24
35-44歳	(585)	2.10	1.26 3.49	2.49	1.36 4.54	1.89	0.92 3.91	2.13	1.46 3.09
45-54歳	(747)	2.34	1.44 3.81	2.68	1.52 4.71	2.05	1.05 4.01	2.27	1.59 3.22
55-64歳	(791)	2.52	1.62 3.92	2.44	1.46 4.08	2.20	1.21 4.01	2.20	1.60 3.02
65歳以上	(1090)	1.00	-	1.00	-	1.00	-	1.00	-
婚姻状態									
結婚している(事実婚含む)	(2811)	1.00	-	1.00	-	1.00	-	1.00	-
一度も結婚したことはない	(516)	1.84	1.27 2.67	1.34	0.87 2.06	0.85	0.48 1.52	1.21	0.90 1.62
死別・別居・離婚	(524)	2.17	1.54 3.05	2.04	1.38 3.03	1.31	0.74 2.33	1.94	1.49 2.53
学歴									
高卒未満	(1128)	0.31	0.19 0.48	0.83	0.50 1.38	0.89	0.51 1.53	0.58	0.42 0.80
高卒	(1400)	0.65	0.47 0.90	0.86	0.57 1.28	0.92	0.59 1.44	0.74	0.58 0.95
短大・専門学校	(681)	0.79	0.55 1.13	1.18	0.77 1.81	1.42	0.85 2.38	1.01	0.76 1.33
大卒以上	(642)	1.00	-	1.00	-	1.00	-	1.00	-
雇用状態									
就業中	(2399)	1.00	-	1.00	-	1.00	-	1.00	-
学生	(40)	1.33	0.52 3.37	1.67	0.65 4.27	1.22	0.33 4.47	1.11	0.52 2.37
家事	(786)	1.14	0.81 1.61	1.05	0.70 1.58	0.96	0.44 2.06	0.95	0.72 1.25
引退	(439)	1.23	0.72 2.12	0.91	0.47 1.75	0.81	0.42 1.57	0.87	0.59 1.28
その他(求職中, 休職中, 就業不能など)	(187)	1.54	0.92 2.55	1.56	0.89 2.72	1.28	0.60 2.74	1.30	0.87 1.93

注) 経験あり = 1, n = 3,851

表15. 基本属性とDSM-IV診断による精神障害の12ヶ月診断との関連・オッズ比と95%信頼区間

性別	人数	いずれかの気分障害		いずれかの不安障害		いずれかの物質関連障害		いずれかの精神障害	
		オッズ比	95% 信頼区間 下限 上限	オッズ比	95% 信頼区間 下限 上限	オッズ比	95% 信頼区間 下限 上限	オッズ比	95% 信頼区間 下限 上限
男性	(1733)	1.00	-	1.00	-	1.00	-	1.00	-
女性	(2118)	1.93	1.22 3.06	1.67	1.10 2.54	0.49	0.17 1.43	1.49	1.10 2.03
年齢層									
20-34歳	(638)	3.16	1.30 7.71	2.48	1.11 5.56	3.00	0.37 24.04	2.60	1.44 4.69
35-44歳	(585)	2.60	1.07 6.30	2.93	1.36 6.32	2.50	0.34 18.44	2.59	1.46 4.57
45-54歳	(747)	2.37	1.00 5.62	3.26	1.58 6.74	0.90	0.10 7.80	2.43	1.41 4.19
55-64歳	(791)	2.14	0.97 4.73	1.94	0.96 3.92	1.25	0.20 7.65	1.77	1.06 2.97
65歳以上	(1090)	1.00	-	1.00	-	1.00	-	1.00	-
婚姻状態									
結婚している(事実婚含む)	(2811)	1.00	-	1.00	-	1.00	-	1.00	-
一度も結婚したことはない	(516)	1.77	1.01 3.11	1.64	0.96 2.81	1.19	0.30 4.65	1.53	1.03 2.28
死別・別居・離婚	(524)	1.76	0.95 3.23	1.58	0.92 2.70	0.66	0.08 5.39	1.54	1.03 2.32
学歴									
高卒未満	(1128)	0.33	0.15 0.71	0.99	0.50 1.96	1.28	0.26 6.21	0.74	0.45 1.20
高卒	(1400)	0.53	0.32 0.89	1.14	0.67 1.95	1.13	0.34 3.80	0.83	0.57 1.20
短大・専門学校	(681)	0.67	0.38 1.15	1.39	0.79 2.45	0.66	0.15 2.89	0.95	0.64 1.43
大卒以上	(642)	1.00	-	1.00	-	1.00	-	1.00	-
雇用状態									
就業中	(2399)	1.00	-	1.00	-	1.00	-	1.00	-
学生	(40)	0.79	0.18 3.52	2.81	0.98 8.01	5.54	0.89 34.63	1.43	0.56 3.63
家事	(786)	1.27	0.71 2.26	1.45	0.89 2.37	0.46	0.05 4.28	1.16	0.79 1.71
引退	(439)	1.55	0.64 3.75	0.46	0.14 1.56	1.07	0.16 7.04	0.70	0.34 1.41
その他(求職中、休職中、就業不能など)	(187)	1.51	0.67 3.39	1.60	0.78 3.31	1.12	0.14 9.09	1.14	0.62 2.07

注) 経験あり = 1, n = 3,851

表16. 基本属性とICD-10診断による精神障害の生涯診断との関連:オッズ比(OR)と95%信頼区間(95%CI)

	人数	いずれかの気分障害		いずれかの不安障害		いずれかの物質関連障害		いずれかの精神障害	
		オッズ比	95% 信頼区間 下限 上限	オッズ比	95% 信頼区間 下限 上限	オッズ比	95% 信頼区間 下限 上限	オッズ比	95% 信頼区間 下限 上限
性別									
男性	(1733)	1.00	-	1.00	-	1.00	-	1.00	-
女性	(2118)	2.33	1.71 3.18	1.36	1.04 1.78	0.18	0.11 0.30	1.08	0.88 1.32
年齢層									
20-34歳	(638)	1.93	1.07 3.47	2.80	1.68 4.66	2.28	1.07 4.86	2.17	1.46 3.23
35-44歳	(585)	2.07	1.18 3.63	2.30	1.40 3.77	1.90	0.92 3.90	2.14	1.47 3.11
45-54歳	(747)	2.70	1.59 4.57	2.11	1.32 3.38	2.05	1.05 3.98	2.28	1.60 3.23
55-64歳	(791)	2.51	1.55 4.07	1.90	1.24 2.90	2.16	1.19 3.92	2.00	1.45 2.75
65歳以上	(1090)	1.00	-	1.00	-	1.00	-	1.00	-
婚姻状態									
結婚している(事実婚含む)	(2811)	1.00	-	1.00	-	1.00	-	1.00	-
一度も結婚したことはない	(516)	1.95	1.31 2.90	1.02	0.69 1.49	0.82	0.46 1.46	1.18	0.88 1.58
死別・別居・離婚	(524)	2.33	1.62 3.35	2.45	1.77 3.39	1.40	0.80 2.45	2.18	1.68 2.84
学歴									
高卒未満	(1128)	0.37	0.22 0.61	0.71	0.46 1.09	0.91	0.53 1.57	0.65	0.47 0.89
高卒	(1400)	0.71	0.50 1.02	0.84	0.60 1.17	0.92	0.59 1.45	0.79	0.61 1.02
短大・専門学校	(681)	0.87	0.59 1.28	1.04	0.72 1.49	1.47	0.88 2.45	1.08	0.81 1.43
大卒以上	(642)	1.00	-	1.00	-	1.00	-	1.00	-
雇用状態									
就業中	(2399)	1.00	-	1.00	-	1.00	-	1.00	-
学生	(40)	1.57	0.61 4.01	2.62	1.19 5.74	1.18	0.32 4.32	1.72	0.85 3.48
家事	(786)	1.12	0.77 1.63	0.92	0.64 1.31	0.95	0.44 2.04	0.84	0.64 1.12
引退	(439)	1.29	0.72 2.31	1.00	0.59 1.68	0.86	0.45 1.63	1.02	0.70 1.48
その他(求職中, 休職中, 就業不能など)	(187)	1.75	1.04 2.96	1.70	1.06 2.71	1.26	0.59 2.70	1.39	0.94 2.06

注) 経験あり = 1, n = 3,851

表17: 基本属性とICD-10診断による精神障害の12ヶ月診断との関連: オッズ比と95%信頼区間

性別	人数	いずれかの気分障害		いずれかの不安障害		いずれかの物質関連障害		いずれかの精神障害	
		オッズ比	95% 信頼区間 下限 上限	オッズ比	95% 信頼区間 下限 上限	オッズ比	95% 信頼区間 下限 上限	オッズ比	95% 信頼区間 下限 上限
男性	(1733)	1.00	-	1.00	-	1.00	-	1.00	-
女性	(2118)	2.15	1.27 3.64	1.31	0.93 1.85	0.43	0.15 1.25	1.40	1.04 1.88
年齢層									
20-34歳	(638)	4.10	1.41 11.91	1.90	0.98 3.66	3.91	0.53 28.89	2.24	1.26 4.00
35-44歳	(585)	2.34	0.77 7.08	2.10	1.13 3.91	2.49	0.34 18.02	2.14	1.23 3.74
45-54歳	(747)	3.95	1.44 10.82	2.07	1.15 3.74	0.88	0.10 7.60	2.35	1.39 3.97
55-64歳	(791)	3.35	1.31 8.54	1.36	0.77 2.40	1.23	0.20 7.50	1.61	0.98 2.65
65歳以上	(1090)	1.00	-	1.00	-	1.00	-	1.00	-
婚姻状態									
結婚している(事実婚含む)	(2811)	1.00	-	1.00	-	1.00	-	1.00	-
一度も結婚したことばない	(516)	2.20	1.17 4.13	1.21	0.75 1.95	0.91	0.24 3.43	1.41	0.94 2.10
死別・別居・離婚	(524)	1.88	0.95 3.72	1.77	1.14 2.75	0.65	0.08 5.22	1.70	1.15 2.52
学歴									
高卒未満	(1128)	0.48	0.21 1.12	0.59	0.33 1.02	1.30	0.28 6.17	0.57	0.35 0.92
高卒	(1400)	0.66	0.36 1.20	0.79	0.51 1.20	1.12	0.34 3.71	0.69	0.48 1.00
短大・専門学校	(681)	0.81	0.43 1.52	1.09	0.69 1.70	0.91	0.23 3.57	0.93	0.63 1.36
大卒以上	(642)	1.00	-	1.00	-	1.00	-	1.00	-
雇用状態									
就業中	(2399)	1.00	-	1.00	-	1.00	-	1.00	-
学生	(40)	0.97	0.22 4.36	2.97	1.19 7.40	4.60	0.76 27.98	2.06	0.88 4.79
家事	(786)	1.24	0.64 2.37	1.11	0.70 1.75	0.44	0.05 4.11	1.07	0.72 1.59
引退	(439)	1.20	0.40 3.62	0.97	0.48 1.95	1.01	0.15 6.63	0.93	0.50 1.73
その他(求職中, 体職中, 就業不能など)	(187)	1.59	0.66 3.82	2.13	1.21 3.75	1.10	0.14 8.80	1.77	1.05 2.97

注) 経験あり=1, n=3,851

表18:こころの健康に関する受診・相談行動の頻度:

	これまで		過去12ヶ月間		過去30日間	
	受診率	受診者数	受診率	受診者数	受診率	受診者数
<b>受診・相談先</b>						
精神科医	4.3%	177	1.5%	60	1.0%	41
一般医	4.5%	184	1.8%	76	1.0%	42
医師合計	8.0%	330	3.0%	126	2.0%	81
その他の専門家	1.8%	73	0.6%	23	0.2%	10
その他の相談先	2.0%	84	0.6%	23	0.2%	10
相談先合計	10.3%	425	3.8%	156	2.3%	94
<b>上記以外の相談先</b>						
インターネット	0.6%	24	0.2%	10	0.1%	3
自助グループ	1.4%	56	0.4%	18	0.2%	8
電話相談	1.0%	40	0.3%	11	0.1%	5

注:受診・相談先は以下のとおり。精神科医＝精神科医。一般医＝一般開業医あるいはかかりつけ医、循環器医、産婦人科医、泌尿器科医など、その他の医者。医師合計＝精神科医あるいは一般医。その他の専門家＝心理士、ソーシャルワーカー、カウンセラー、心理療法家のようなその他のメンタルヘルスの専門家、看護師、医療助手など(その他)の医療専門家。その他の相談先＝お坊さん、牧師などの宗教家、漢方医、整体師、心霊術師、霊ばい師などその他の治療家。相談先合計＝以上のいずれかの受診・相談先。

表19:DSM-IVによる診断別のこころの健康に関する受診・相談行動の頻度

	これまでの生涯		過去12ヶ月間		過去30日間	
	受診率	受診者数	受診率	受診者数	受診率	受診者数
大うつ病性障害	(N=259)		(N=88)		(N=14)	
精神科医	18.9%	49	14.8%	13	0.0%	0
一般医	12.7%	33	6.8%	6	7.1%	1
医師合計	29.0%	75	21.6%	19	7.1%	1
その他の専門家	8.1%	21	6.8%	6	7.1%	1
その他の相談先	8.9%	23	5.7%	5	0.0%	0
相談先合計	36.3%	94	27.3%	24	14.3%	2
いずれかの気分障害	(N=366)		(N=129)		(N=26)	
精神科医	18.3%	67	11.6%	15	0.0%	0
一般医	13.1%	48	7.8%	10	11.5%	3
医師合計	27.9%	102	18.6%	24	11.5%	3
その他の専門家	7.9%	29	6.2%	8	3.8%	1
その他の相談先	7.7%	28	4.7%	6	3.8%	1
相談先合計	33.9%	124	22.5%	29	15.4%	4
いずれかの不安障害	(N=276)		(N=166)		(N=106)	
精神科医	17.0%	47	7.2%	12	4.7%	5
一般医	19.2%	53	10.8%	18	0.9%	1
医師合計	30.4%	84	15.7%	26	5.7%	6
その他の専門家	7.2%	20	4.8%	8	0.0%	0
その他の相談先	7.6%	21	3.6%	6	0.9%	1
相談先合計	36.6%	101	18.7%	31	5.7%	6
いずれかの物質関連障害	(N=167)		(N=21)		(N=6)	
精神科医	16.2%	27	9.5%	2	16.7%	1
一般医	7.2%	12	14.3%	3	0.0%	0
医師合計	21.0%	35	23.8%	5	16.7%	1
その他の専門家	3.6%	6	4.8%	1	0.0%	0
その他の相談先	3.6%	6	0.0%	0	0.0%	0
相談先合計	22.8%	38	23.8%	5	16.7%	1
いずれかの精神障害	(N=711)		(N=297)		(N=143)	
精神科医	14.6%	104	7.7%	23	3.5%	5
一般医	12.2%	87	8.8%	26	2.8%	4
医師合計	23.8%	169	14.8%	44	6.3%	9
その他の専門家	5.8%	41	4.0%	12	0.7%	1
その他の相談先	5.8%	41	3.0%	9	1.4%	2
相談先合計	28.8%	205	17.5%	52	7.0%	10

\*「これまでの生涯」＝生涯診断ありの者の中でのこれまでに受診経験ありの者の割合。

「過去12ヶ月間」＝過去12ヶ月間に診断ありの者の中で過去12ヶ月間に受診経験ありの者の割合。

「過去30日間」＝過去30日間に診断ありの者の中で過去30日間に受診経験ありの者の割合。

注1:疾患グループは以下のとおり。いずれかの気分障害＝大うつ病、小うつ病、躁病エピソード、双極I型障害、軽躁病エピソード、双極II型障害、気分変調性障害、焦燥性大うつ病、焦燥性小うつ病。いずれかの不安障害＝パニック障害、広場恐怖、社会恐怖、特定の恐怖症、全般性不安障害、外傷後ストレス障害。いずれかの物質関連障害＝アルコール乱用あるいは依存症、薬物乱用あるいは依存症。いずれかの精神障害＝以上のいずれかの精神障害＋間欠性爆発性障害。

注2:受診・相談先は表18を参照のこと。

表20:ICD-10による診断別のこころの健康に関する受診・相談行動の頻度

	これまでの生涯		過去12ヶ月間		過去30日間	
	受診率	受診者数	受診率	受診者数	受診率	受診者数
重症うつ病エピソード	(N=111)		(N=40)		(N=7)	
精神科医	22.5%	25	12.5%	5	0.0%	0
一般医	9.9%	11	0.0%	0	0.0%	0
医師合計	27.9%	31	12.5%	5	0.0%	0
その他の専門家	8.1%	9	2.5%	1	0.0%	0
その他の相談先	10.8%	12	2.5%	1	0.0%	0
相談先合計	36.9%	41	17.5%	7	0.0%	0
全てのうつ病エピソード	(N=274)		(N=87)		(N=10)	
精神科医	18.6%	51	13.8%	12	0.0%	0
一般医	12.8%	35	8.0%	7	10.0%	1
医師合計	28.5%	78	21.8%	19	10.0%	1
その他の専門家	7.3%	20	4.6%	4	0.0%	0
その他の相談先	7.7%	21	4.6%	4	0.0%	0
相談先合計	34.7%	95	24.1%	21	10.0%	1
いずれかの気分障害	(N=310)		(N=104)		(N=21)	
精神科医	20.3%	63	13.5%	14	4.8%	1
一般医	13.9%	43	8.7%	9	9.5%	2
医師合計	30.3%	94	21.2%	22	14.3%	3
その他の専門家	8.7%	27	4.8%	5	4.8%	1
その他の相談先	8.4%	26	4.8%	5	4.8%	1
相談先合計	36.8%	114	24.0%	25	19.0%	4
いずれかの神経症性・ストレス性障害	(N=382)		(N=223)		(N=153)	
精神科医	15.4%	59	6.7%	15	3.3%	5
一般医	16.8%	64	9.9%	22	2.0%	3
医師合計	26.7%	102	13.9%	31	5.2%	8
その他の専門家	6.8%	26	4.0%	9	0.7%	1
その他の相談先	9.2%	35	4.0%	9	1.3%	2
相談先合計	33.8%	129	16.6%	37	5.2%	8
いずれかの精神作用物質による障害	(N=169)		(N=23)		(N=7)	
精神科医	16.0%	27	8.7%	2	14.3%	1
一般医	7.1%	12	13.0%	3	0.0%	0
医師合計	20.7%	35	21.7%	5	14.3%	1
その他の専門家	3.6%	6	4.3%	1	0.0%	0
その他の相談先	3.6%	6	0.0%	0	0.0%	0
相談先合計	22.5%	38	21.7%	5	14.3%	1
いずれかの精神障害	(N=704)		(N=309)		(N=171)	
精神科医	14.8%	104	7.1%	22	2.9%	5
一般医	13.1%	92	9.4%	29	2.3%	4
医師合計	24.3%	171	14.6%	45	5.3%	9
その他の専門家	5.5%	39	3.2%	10	1.2%	2
その他の相談先	6.5%	46	3.2%	10	1.2%	2
相談先合計	30.0%	211	16.8%	52	5.8%	10

\*「これまでの生涯」＝生涯診断ありの者の中でのこれまでに受診経験ありの者の割合。

「過去12ヶ月間」＝過去12ヶ月間に診断ありの者の中で過去12ヶ月間に受診経験ありの者の割合。

「過去30日間」＝過去30日間に診断ありの者の中で過去30日間に受診経験ありの者の割合。

注1:疾患グループは以下のとおり。いずれかの気分障害＝うつ病エピソード、躁病エピソード、軽躁病エピソード、気分変調症。いずれかの神経症性・ストレス性障害＝パニック障害、広場恐怖、社会恐怖、特定の恐怖症、全般性不安障害、外傷後ストレス障害。いずれかの精神作用物質による障害＝アルコールの有害な使用あるいは依存症、薬物の有害な使用あるいは依存症。いずれかの精神障害＝以上のいずれかの精神障害。

注2:受診・相談先は表18を参照のこと。

表21: ころの健康問題で専門家を受診することについての意識: 対象者から抽出された者に対する追加調査

	合計(N=1725)		性別				いづれかの精神障害 (DSM-IV診断)					
	人数	%	男性(N=761)		女性(N=964)		経験なし(N=1075)		経験あり(N=650)			
			人数	%	人数	%	人数	%	人数	%		
ころの健康問題で専門家を受診するかどうか												
絶対を受ける	276	16.0%	112	14.7%	164	17.0%	167	15.5%	109	16.8%		
おそらく受ける	848	49.2%	352	46.3%	496	51.5%	548	51.0%	300	46.2%		
おそらく受けない	389	22.6%	180	23.7%	209	21.7%	227	21.1%	162	24.9%		
絶対に受けない	103	6.0%	61	8.0%	42	4.4%	60	5.6%	43	6.6%		
不明・拒否	109	6.3%	56	7.4%	53	5.5%	73	6.8%	36	5.5%		
専門家に対して自分の問題を心を開いて話せるか												
とても心を開いて話せる	677	39.2%	334	43.9%	343	35.6%	422	39.3%	255	39.2%		
いくらか心を開いて話せる	751	43.5%	278	36.5%	473	49.1%	477	44.4%	274	42.2%		
あまり心を開いて話せない	142	8.2%	69	9.1%	73	7.6%	75	7.0%	67	10.3%		
全く心を開いて話せない	39	2.3%	23	3.0%	16	1.7%	22	2.0%	17	2.6%		
不明・拒否	116	6.7%	57	7.5%	59	6.1%	79	7.3%	37	5.7%		
専門家を受診したことが友人にしたら恥ずかしいか												
とても恥ずかしい	161	9.3%	76	10.0%	85	8.8%	96	8.9%	65	10.0%		
いくらか恥ずかしい	585	33.9%	234	30.7%	351	36.4%	375	34.9%	210	32.3%		
あまり恥ずかしくない	520	30.1%	217	28.5%	303	31.4%	334	31.1%	186	28.6%		
全く恥ずかしくない	347	20.1%	176	23.1%	171	17.7%	191	17.8%	156	24.0%		
不明・拒否	112	6.5%	58	7.6%	54	5.6%	79	7.3%	33	5.1%		

\* 不明・拒否を除いて回答を2分したところ、男性で、専門家を受診しないと回答した者が多く( $p<0.01$ )、心を開いて話せないと回答した者が多かった( $p<0.05$ )。また、いづれかの精神障害の経験ありの者で、専門家を受診しないと回答した者が多く( $p<0.05$ )、心を開いて話せないと回答した者が多かった( $p<0.05$ )。それ以外は有意差はなかった。

表22:こころの健康問題による受診の遅れの理由:いずれかの精神疾患の経過

	受診しようと思って から4週間以上受診 しなかった者(64名)	
	割合	人数
自力で問題に対処したかった	69%	44
問題はひとりで改善するだろうと思っていた	48%	31
その問題は最初、それほど困らなかった	47%	30
どこに行けば良いか、誰に見てもらえば良いかわからなかった	41%	26
自分が治療を受けている事が知られたら、他人がどう思うか心配だった	28%	18
治療には時間がかかったり、不便だと思った	25%	16
治療が、効果があるとは思わなかった	23%	15
交通手段、子供の世話、スケジュールなど治療にゆくことに支障があった	22%	14
費用がどれくらいかかるか心配だった	14%	9
以前に治療を受けたが、効果がなかった	11%	7
保険で治療が受けれないと思った	8%	5
予約が取れなかった	3%	2
意思に反して、病院に入れられるのが怖かった	2%	1
利用できるサービスに満足しなかった	2%	1
その他	25%	16

\* 受診した132名の受診までの期間は中央値2.6週(最小0週、最大371週).

表23: 精神障害の経験者に対する薬物療法および精神療法の頻度

	経験者数	薬物療法		精神療法	
		人数	%	人数	%
生涯診断					
(DSM-IV)					
大うつ病性障害	259	64	24.7%	44	17.0%
いずれかの気分障害	366	87	23.8%	55	15.0%
いずれかの不安障害	276	66	23.9%	41	14.9%
いずれかの物質関連障害	167	32	19.2%	16	9.6%
いずれかの精神障害	711	140	19.7%	84	11.8%
(ICD-10)					
重症うつ病エピソード	111	26	23.4%	22	19.8%
全てのうつ病エピソード	274	65	23.7%	46	16.8%
いずれかの気分障害	310	80	25.8%	56	18.1%
いずれかの神経症性・ストレス性障害	382	82	21.5%	48	12.6%
いずれかの精神作用物質による障害	169	32	18.9%	16	9.5%
いずれかの精神障害	704	140	19.9%	83	11.8%
12ヶ月診断					
(DSM-IV)					
大うつ病性障害	88	26	29.5%	17	19.3%
いずれかの気分障害	129	33	25.6%	21	16.3%
いずれかの不安障害	166	36	21.7%	23	13.9%
いずれかの物質関連障害	21	6	28.6%	4	19.0%
いずれかの精神障害	297	64	21.5%	39	13.1%
(ICD-10)					
重症うつ病エピソード	40	8	20.0%	8	20.0%
全てのうつ病エピソード	87	24	27.6%	16	18.4%
いずれかの気分障害	104	29	27.9%	21	20.2%
いずれかの神経症性・ストレス性障害	223	46	20.6%	29	13.0%
いずれかの精神作用物質による障害	23	7	30.4%	4	17.4%
いずれかの精神障害	309	68	22.0%	40	12.9%
30日診断					
(DSM-IV)					
大うつ病性障害	14	5	35.7%	4	28.6%
いずれかの気分障害	26	8	30.8%	7	26.9%
いずれかの不安障害	106	22	20.8%	17	16.0%
いずれかの物質関連障害	6	1	16.7%	1	16.7%
いずれかの精神障害	143	31	21.7%	23	16.1%
(ICD-10)					
重症うつ病エピソード	7	1	14.3%	2	28.6%
全てのうつ病エピソード	10	3	30.0%	3	30.0%
いずれかの気分障害	21	9	42.9%	9	42.9%
いずれかの神経症性・ストレス性障害	153	28	18.3%	21	13.7%
いずれかの精神作用物質による障害	7	1	14.3%	1	14.3%
いずれかの精神障害	171	34	19.9%	27	15.8%

注: 薬物療法は、専門家からの処方や投薬による治療。精神療法は、30分以上のカウンセリングや心理療法。疾患グループは表19と20を参照のこと。

表24: DSM-IVによる12カ月診断ありの者における精神障害のために生じた生活上の支障

	生活上の支障(0-10点)*				生活上の支障 の総計(0-40)
	自宅の管理	仕事・家事	親しい人間関係	地域・職場の関係	
大うつ病性障害					
度数	(69)	(63)	(72)	(71)	(57)
平均値	4.3	4.7	4.4	4.1	17.5
標準偏差	3.2	3.5	2.8	3.2	10.2
最小値	0	0	0	0	0
最大値	10	10	10	10	39
いずれかの気分障害(抑うつ時)					
度数	(89)	(80)	(91)	(89)	(73)
平均値	4.0	4.2	4.0	3.7	15.7
標準偏差	3.2	3.6	3.0	3.3	10.6
最小値	0	0	0	0	0
最大値	10	10	10	10	39
躁病あるいは軽躁病エピソード					
度数	(7)	(4)	(7)	(7)	(4)
平均値	3.4	6.0	1.9	5.3	15.5
標準偏差	3.0	3.2	2.9	3.5	3.1
最小値	0	3	0	0	13
最大値	8	10	8	10	20
特定の恐怖症					
度数	(85)	(80)	(86)	(86)	(78)
平均値	2.4	1.9	1.2	1.0	6.3
標準偏差	3.1	2.8	2.1	1.9	7.2
最小値	0	0	0	0	0
最大値	10	10	9	7	29
社会恐怖					
度数	(20)	(21)	(21)	(21)	(20)
平均値	2.2	4.4	3.9	4.5	14.1
標準偏差	2.5	3.5	3.3	3.2	9.4
最小値	0	0	0	0	0
最大値	8	10	10	10	31
全般性不安障害					
度数	(32)	(31)	(34)	(34)	(29)
平均値	3.6	5.2	3.7	3.4	15.9
標準偏差	3.2	3.2	3.7	3.2	10.3
最小値	0	0	0	0	0
最大値	10	10	10	10	40
外傷後ストレス障害					
度数	(6)	(4)	(6)	(5)	(4)
平均値	8.3	9.5	7.8	9.4	35.5
標準偏差	2.4	0.6	3.9	0.9	4.1
最小値	4	9	0	8	30
最大値	10	10	10	10	40
間歇性爆発性障害					
度数	(25)	(24)	(26)	(25)	(22)
平均値	1.3	1.8	2.5	1.3	6.9
標準偏差	1.6	2.3	3.1	2.4	7.6
最小値	0	0	0	0	0
最大値	5	9	10	9	20
慢性の身体疾患**					
度数	(932)	(861)	(960)	(940)	(827)
平均値	2.1	2.2	0.9	0.9	5.7
標準偏差	2.9	3.0	2.0	2.1	8.4
最小値	0	0	0	0	0
最大値	10	10	10	10	40

\* その状態のためにそれぞれの領域でどの程度生活に支障があったかたずねた。生活上の支障は Sheehan尺度で評価した。0点がまったく支障なし、10点が最大の支障ありを意味する。

\*\* 精神障害との比較のため、循環器疾患、がん、整形外科疾患など過去12ヶ月間に対象者が有する慢性の身体疾患のうちからランダムに1つを選んでその影響をたずねた。

表25: ICD-10による12カ月診断ありの者における精神障害のために生じた生活上の支障

	生活上の支障(0-10点)*				生活上の支障 の総計(0-40)
	自宅の管理	仕事・家事	親しい人間関係	地域・職場の関係	
全てのうつ病エピソード					
度数	(74)	(67)	(76)	(76)	(62)
平均値	4.2	4.6	4.3	3.9	16.7
標準偏差	3.2	3.6	3.0	3.3	10.8
最小値	0	0	0	0	0
最大値	10	10	10	10	39
いずれかの気分(感情)障害(抑うつ時)					
度数	(83)	(74)	(85)	(83)	(67)
平均値	4.2	4.5	4.2	3.8	16.7
標準偏差	3.3	3.6	3.0	3.3	11.0
最小値	0	0	0	0	0
最大値	10	10	10	10	40
躁病あるいは軽躁病エピソード					
度数	(17)	(14)	(17)	(17)	(14)
平均値	4.8	5.3	3.7	5.2	19.3
標準偏差	3.4	3.9	3.0	3.4	8.8
最小値	0	0	0	0	9
最大値	10	10	10	10	40
特定の恐怖症					
度数	(113)	(107)	(114)	(114)	(106)
平均値	1.3	1.2	0.8	0.7	3.9
標準偏差	2.4	2.3	1.8	1.7	6.2
最小値	0	0	0	0	0
最大値	10	10	9	7	29
社会恐怖					
度数	(26)	(25)	(27)	(27)	(24)
平均値	1.2	2.9	2.1	2.8	8.4
標準偏差	1.9	3.5	2.9	3.2	8.3
最小値	0	0	0	0	0
最大値	6	10	10	10	31
全般性不安障害					
度数	(31)	(29)	(34)	(33)	(28)
平均値	3.5	4.7	3.5	3.9	15.3
標準偏差	3.2	3.6	3.1	3.1	9.8
最小値	0	0	0	0	0
最大値	9	10	10	9	34
外傷後ストレス障害					
度数	(10)	(10)	(10)	(10)	(10)
平均値	5.3	5.2	5.6	4.5	20.6
標準偏差	3.4	4.1	3.8	3.8	13.1
最小値	0	0	0	0	3
最大値	10	10	10	10	40
慢性の身体疾患(再掲)**					
度数	(932)	(861)	(960)	(940)	(827)
平均値	2.1	2.2	0.9	0.9	5.7
標準偏差	2.9	3.0	2.0	2.1	8.4
最小値	0	0	0	0	0
最大値	10	10	10	10	40

\* その状態のためにそれぞれの領域でどの程度生活に支障があったかたずねた。生活上の支障はSheehan尺度で評価した0点がまったく支障なし、10点が最大の支障ありを意味する。

\*\* 精神障害との比較のため、循環器疾患、がん、整形外科疾患など過去12ヶ月間に対象者が有する慢性の身体疾患のうちからランダムに1つを選んでその影響をたずねた。

表26:DSM-IVによる12カ月診断ありの者における精神障害のために生じた一年間の休業日数

	年間の休業日数				
	度数	平均値	標準偏差	最小値	最大値
大うつ病性障害	(76)	22.1	59.0	0	365
いずれかの気分障害(抑うつ時)	(96)	20.0	56.3	0	365
躁病あるいは軽躁病エピソード	(8)	0.4	1.1	0	3
特定の恐怖症	(87)	1.7	10.3	0	90
社会恐怖	(21)	11.1	34.8	0	160
全般性不安障害	(33)	10.3	18.7	0	60
外傷後ストレス障害	(5)	46.6	75.4	0	180
間歇性爆発性障害	(27)	0.3	0.8	0	3
慢性の身体疾患	(1000)	5.3	34.9	0	365

\* 精神障害との比較のため、循環器疾患、がん、整形外科疾患など過去12ヶ月間に対象者が有する慢性の身体疾患のうちからランダムに1つを選んでその影響をたずねた。

表27:ICD-10による12カ月診断ありの者における精神障害のために生じた一年間の休業日数

	年間の休業日数				
	度数	平均値	標準偏差	最小値	最大値
全てのうつ病エピソード	(80)	20.9	57.7	0	365
いずれかの気分(感情)障害(抑うつ時)	(90)	21.0	57.9	0	365
躁病あるいは軽躁病エピソード	(17)	9.0	16.5	0	60
特定の恐怖症	(116)	1.3	9.0	0	90
社会恐怖	(26)	7.3	31.3	0	160
全般性不安障害	(34)	8.7	16.8	0	60
外傷後ストレス障害	(10)	30.1	57.3	0	180
慢性の身体疾患(再掲)	(1000)	5.3	34.9	0	365

\* 精神障害との比較のため、循環器疾患、がん、整形外科疾患など過去12ヶ月間に対象者が有する慢性の身体疾患のうちからランダムに1つを選んでその影響をたずねた。

表28: 過去1カ月間のストレス頻度

性別	年齢層	「この1カ月間に、不満、悩み、苦勞、ストレスなどがどのくらいありましたか」										再掲	
		大いにあった		多少あった		あまりない		まったくない		合計		ストレスを感じている者*	%
		度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%		
男性	20-34	42	14.7	142	49.8	74	26.0	27	9.5	285	100.0	184	64.6
	35-44	51	19.3	146	55.3	56	21.2	11	4.2	264	100.0	197	74.6
	45-54	60	16.0	178	47.6	106	28.3	30	8.0	374	100.0	238	63.6
	55-64	47	11.5	158	38.7	147	36.0	56	13.7	408	100.0	205	50.2
	65+	49	9.1	173	32.2	182	33.8	134	24.9	538	100.0	222	41.3
男性計		249	13.3	797	42.6	565	30.2	258	13.8	1869	100.0	1046	56.0
女性	20-34	64	16.1	233	58.5	82	20.6	19	4.8	398	100.0	297	74.6
	35-44	63	17.8	203	57.5	74	21.0	13	3.7	353	100.0	266	75.4
	45-54	85	20.7	213	51.8	94	22.9	19	4.6	411	100.0	298	72.5
	55-64	62	14.3	199	45.7	136	31.3	38	8.7	435	100.0	261	60.0
	65+	49	7.4	221	33.2	243	36.5	152	22.9	665	100.0	270	40.6
女性計		323	14.3	1069	47.3	629	27.8	241	10.7	2262	100.0	1392	61.5
合計		572	13.8	1866	45.2	1194	28.9	499	12.1	4131	100.0	2438	59.0

\* 過去1ヶ月のストレスが「大いにあった」「多少あった」と回答した者

注) 欠損値が存在するため面接完了者数より若干少ない。

表29: 身体的健康

性別	年齢層	「一般的に見て、あなたの身体的な健康は、きわめて良いですか、とても良いですか、良いですか、まあまあですか、それとも不健康ですか」										再掲			
		きわめて良い		とても良い		良い		まあまあ		不健康		合計		身体的健康がよい者*	%
		度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%		
男性	20-34	41	14.4	67	23.5	97	34.0	73	25.6	7	2.5	285	100.0	205	71.9
	35-44	12	4.5	33	12.5	92	34.8	107	40.5	20	7.6	264	100.0	137	51.9
	45-54	39	10.4	45	12.0	114	30.5	152	40.6	24	6.4	374	100.0	198	52.9
	55-64	37	9.1	44	10.8	126	30.9	172	42.2	29	7.1	408	100.0	207	50.7
	65+	44	8.1	46	8.5	163	30.2	241	44.6	46	8.5	540	100.0	253	46.9
男性計		173	9.2	235	12.6	592	31.6	745	39.8	126	6.7	1871	100.0	1000	53.4
女性	20-34	41	10.3	72	18.1	157	39.4	111	27.9	17	4.3	398	100.0	270	67.8
	35-44	25	7.1	67	19.0	132	37.4	108	30.6	21	5.9	353	100.0	224	63.5
	45-54	36	8.8	34	8.3	137	33.3	177	43.1	27	6.6	411	100.0	207	50.4
	55-64	39	9.0	35	8.0	141	32.4	199	45.7	21	4.8	435	100.0	215	49.4
	65+	53	8.0	41	6.2	197	29.6	333	50.1	41	6.2	665	100.0	291	43.8
女性計		194	8.6	249	11.0	764	33.8	928	41.0	127	5.6	2262	100.0	1207	53.4
合計		367	8.9	484	11.7	1356	32.8	1673	40.5	253	6.1	4133	100.0	2207	53.4

\* 身体的な健康が「きわめて良い」「とても良い」「良い」あるいは「良い」と回答した者

注) 欠損値が存在するため面接完了者数より若干少ない。

表30: 精神的健康

性別	年齢層	「一般的に見て、あなたの精神的な健康は、きわめて良いですか、とても良いですか、良いですか、まあまあですか、まあまあですか、それとも不健康ですか」										再掲			
		きわめて良い		とても良い		良い		まあまあ		不健康			合計		
		度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%		度数	%	
男性	20-34	29	10.2	54	18.9	111	38.9	77	27.0	14	4.9	285	100.0	194	68.1
	35-44	8	3.0	31	11.7	109	41.3	99	37.5	17	6.4	264	100.0	148	56.1
	45-54	30	8.0	33	8.8	160	42.8	135	36.1	16	4.3	374	100.0	223	59.6
	55-64	33	8.1	55	13.5	182	44.6	119	29.2	19	4.7	408	100.0	270	66.2
	65+	67	12.4	80	14.8	185	34.3	190	35.2	18	3.3	540	100.0	332	61.5
男性計		167	8.9	253	13.5	747	39.9	620	33.1	84	4.5	1871	100.0	1167	62.4
女性	20-34	23	5.8	63	15.8	159	39.9	132	33.2	21	5.3	398	100.0	245	61.6
	35-44	15	4.2	41	11.6	139	39.4	140	39.7	18	5.1	353	100.0	195	55.2
	45-54	29	7.1	40	9.7	149	36.3	167	40.6	26	6.3	411	100.0	218	53.0
	55-64	44	10.1	37	8.5	163	37.5	172	39.5	19	4.4	435	100.0	244	56.1
	65+	70	10.5	69	10.4	247	37.2	262	39.5	16	2.4	664	100.0	386	58.1
女性計		181	8.0	250	11.1	857	37.9	873	38.6	100	4.4	2261	100.0	1288	57.0
合計		348	8.4	503	12.2	1604	38.8	1493	36.1	184	4.5	4132	100.0	2455	59.4

\* 精神的な健康が「きわめて良い」「とても良い」あるいは「良い」と回答した者

注) 欠損値が存在するため面接完了者数より若干少ない。

表31: これまでの自殺関連行動の頻度

性別	年齢層	解析人数 <sup>注1)</sup>	これまでに本気で自殺を考えた*		これまでに自殺の計画をたてた		これまでに自殺を試みた	
			度数	%	度数	%	度数	%
男性	20-34	285	29	10.2	7	2.5	4	1.4
	35-44	263	23	8.7	8	3.0	6	2.3
	45-54	374	40	10.7	3	0.8	3	0.8
	55-64	407	38	9.3	7	1.7	6	1.5
	65+	539	33	6.1	6	1.1	2	0.4
男性計		1868	163	8.7	31	1.7	21	1.1
女性	20-34	397	55	13.9	10	2.5	9	2.3
	35-44	353	48	13.6	10	2.8	10	2.8
	45-54	411	50	12.2	6	1.5	10	2.4
	55-64	436	43	9.9	7	1.6	11	2.5
	65+	665	43	6.5	10	1.5	6	0.9
女性計		2262	239	10.6	43	1.9	46	2.0
合計		4130	402	9.7	74	1.8	67	1.6

注1) 自殺についての質問の回答を拒否した者が存在したため解析人数が全対象者数より少なくなっている

表32: 過去12カ月間の自殺関連行動の頻度

性別	年齢層	解析人数 <sup>注1)</sup>	過去12カ月間に本気で自殺を考えた		過去12カ月間に自殺の計画をたてた*		過去12カ月間に自殺を試みた	
			度数	%	度数	%	度数	%
男性	20-34	285	4	1.4	1	0.4	1	0.4
	35-44	263	5	1.9	0	0.0	0	0.0
	45-54	374	6	1.6	1	0.3	0	0.0
	55-64	407	5	1.2	2	0.5	1	0.2
	65+	539	3	0.6	0	0.0	0	0.0
男性計		1868	23	1.2	4	0.2	2	0.1
女性	20-34	397	8	2.0	1	0.3	2	0.5
	35-44	353	3	0.8	0	0.0	1	0.3
	45-54	411	7	1.7	1	0.2	1	0.2
	55-64	436	8	1.8	4	0.9	2	0.5
	65+	665	2	0.3	0	0.0	0	0.0
女性計		2262	28	1.2	6	0.3	6	0.3
合計		4130	51	1.2	10	0.2	8	0.2

注1) 自殺についての質問の回答を拒否した者が存在したため解析人数が全対象者数より少なくなっている

平成 18 年度厚生労働科学研究費補助金（こころの健康総合研究事業）  
こころの健康についての疫学調査に関する研究  
分担研究報告書

こころの健康に関する地域疫学調査の国際比較に関する研究

分担研究者 川上憲人 東京大学大学院医学系研究科・教授  
研究協力者 WMHJ 2002 共同研究グループ

日本を含めて世界 17 カ国で実施された WMH 調査のデータに基づき、わが国と諸外国の間で、①気分、不安、物質関連障害の 12 ヶ月有病率と重症度、②生涯有病率と予想生涯リスク、③受診行動について比較を行った。日本データは平成 14 年度（2002-2003 年）データによる。

わが国の気分、不安、物質関連障害の 12 ヶ月有病率は、欧米先進諸国に比べると低く、中国、ナイジェリア、欧州の中の低い有病率の国々（ドイツ、イタリアなど）と同程度であった。重症度が重度である精神障害については比較的国による有病率の差が小さく、わが国を含め多くの国では 1～3% の範囲であった。重度の精神障害は、各国の精神保健サービスの共通の対象として、その有病率、受診率、社会機能障害が国際比較の指標として有用となる可能性がある。

わが国の心の健康問題による相談・受診の頻度は、欧米にくらべるとまだ低い値であった。特に米国と比較した場合、わが国では一般医へのうつ病の受診率が低かった。わが国で精神障害の受診率を増加させるには、一般医の技術向上が効果的と考えられる。また、不安障害や物質関連障害では、気分障害にくらべて受診までの期間がいずれの国でも長く、うつ病に加えて、これらの疾患の受診を促進することが重要と思われた。

#### A. はじめに

世界保健機関(WHO)は 1998 年に世界精神保健(World Mental Health, WMH) 調査共同研究グループを立ち上げ、発展途上国と先進国とにおける”unmet needs”を精神障害の重症度を考慮しながら検討している(Kessler 1999)。WMH 調査では、WHO 統合国際診断面接(Composite International Diagnostics Interview, CIDI)を拡張し、疾患の重症度、社会機能障害、治療について詳細な質問をできるようにした上で、日本を含む 28 ヶ国でこの WMH-CIDI による調査を実施した。最初の国際共同研究論文は 12 ヶ月有病率、重症度、社会機能障害、治療および人口統計学的要因の関連を 14 ヶ国について比較し、国によって大きな差異があることを明らかにした(WHO World Mental Health Survey Consortium 2004)。特に欧米とアジア各国の間には差異が大きかった。また、この調査では、どの国でも、重症・中等症の精神障害に罹患している者の医師受診率はなお低いことも判明した。

本分担研究では、日本を含めて世界 17 カ国 18 地域（中国が北京と上海の 2 地域）で実施された WMH 調査のデータに基づき、わが国と諸外国の間で、①気分、不安、物質関連障害の 12 ヶ月有病率と重症度、②生涯有病率と予想生涯リスク、③受診行動について比較を行った。日本データは

一部の比較については 2002-2006 年度の全データを使用した。多くは平成 14 年度（2002-2003 年）データに基づいている。

#### B. 対象と方法

##### 1. 調査対象

##### 1) 日本データ

平成 14 年度調査では、岡山県岡山市、長崎県長崎市、鹿児島県串木野市および同吹上町が調査地域として選択された。岡山市は人口 64 万人、長崎市は人口 42 万人、串木野市は 2 万 7 千人、吹上町は 1 万人である。それぞれの地域の 20 歳以上住民の人口構成を表 1 に示した。調査対象者は、各地域の 20 歳以上住民から選挙人名簿あるいは住民台帳を利用して無作為に抽出された。岡山市では調査依頼状を対象者に送付し、訓練を受けた調査員が自宅を訪問して調査への参加を依頼した。調査参加に同意した対象者に対して、自宅あるいは岡山大学に設置した調査センターで面接調査を実施した。長崎市でも調査依頼状を対象者に送付し、調査参加の意志を返信葉書で連絡してきた対象者に対して訓練を受けた調査員が自宅あるいは岡山大学に設置した調査センターで面接調査を実施した。回答のない対象者には 1 ヶ月の間に 2 回の再依頼状を送付した。鹿児島県の 2 つの市町村では、民生委員が調査対象者の自

宅を訪問し調査への参加を依頼した。調査参加に同意した対象者に対して、調査員が自宅で面接調査を実施した。いずれの地区の調査においても、調査に同意した対象者からはインフォームドコンセントを書面で得た。これらの調査は、地域ごとにそれぞれ岡山大学医学部（岡山市）、長崎大学医学部（長崎市）および精神保健研究所（鹿児島県）における研究倫理審査委員会で調査計画の審査を受け、その助言に基づいて修正し、承認されている。

対象者のうち、1664名に面接を実施できた。調査対象者のうち、調査時点で死亡、転居、入院・入所していた対象者は対象外とした（表1）。調査への回答率は完全に面接が実施できた者を分子に、調査対象者からこれらの対象外の者を除外した人数を分母として計算した。回収率は26%（長崎市）から82%（鹿児島県吹上町）まで幅があった。平均回答率は56%であった。

ただし、2004年のWMHの共同研究論文では、婚姻状態が不明という理由で対象者のうち1名（岡山市）が削除されて1663名の分析となっているため、精神障害の12ヶ月有病率、重症度、受診行動およびこれとの人口統計学的要因との関連の分析では解析対象者をこれに合わせて1663名とした。

平成14～18年度までの全データについての対象地域、回答者などの情報は、立森らの分担研究報告を参照されたい。

## 2) 各国のWMH調査

各国のWMH調査の概要を表1に示す。12カ国では全国からの代表サンプル(nationally representative sample)による調査が実施されている。

## 2. 調査方法

調査は、WHO・統合国際診断面接(WHO-CIDI) 3.0を含むWMH調査票のコンピュータ(CAPI)版あるいは紙と鉛筆(PAPI)版が使用した訪問面接調査である（一部の国では電話面接も併用された）。

面接調査は2つの部分に分かれており、前半は全ての対象者に対して実施され、後半は対象者のうちからランダムに選択された者のみに対して追加調査として実施された。これは平均面接所要時間を一定以下におさえるための工夫である。前半部分では主に心の健康問題（精神障害を含む）の実態と相談・受診行動を、後半部分では心の健康問題の関連要因や心の健康に関する意識について調査を行った。

WMH調査では被験者の負担を軽減するため面接を2つのパートに区分し、対象者を面接中にサンプリングしていずれのパートの面接を実施す

るかを決めている。Part Iは精神障害の診断のための情報を収集するパートであり、Part IIは精神障害の関連要因を調査するパートである。すべての対象者にPart Iの面接を実施する。Part Iを終了した対象者のうちからある基準と確率によって選ばれた者に対して、Part II面接を実施した。

## 3. 調査項目

### (1) 精神障害の診断

各種の精神障害については、WHO・統合国際診断面接(CIDI)の最新版であるWMH-CIDI 3.0によって診断に必要な症状や経験を対象者から聞き取り、DSM-IV基準にしたがって気分障害、不安障害、衝動性制御障害、物質関連障害を診断した。付録に、各国の調査で使用された診断名をリストアップしている。診断は器質性疾患による除外診断基準を適応している。ただし双極I型・II型障害には閾値下の双極性障害も含めている。また調査に使用したWHO-CIDIの面接プログラムが、アルコール乱用の質問項目に1つは該当しないとアルコール依存の質問を行わないという面接ルールになっていたため、DSM-IVの診断基準とは異なり、アルコール乱用については依存の有無にかかわらず診断をつけ、アルコール依存についてはアルコール乱用のある依存を診断している。

各精神障害（あるいは気分障害などの疾患グループ）について、過去12ヶ月に診断基準を満たす状態であった場合に過去12ヶ月経験者とし、この割合を「12ヶ月有病率」とした。また、生まれてから調査時点までのどこかで診断基準を満たす状態であった場合に生涯経験者とし、この割合を「生涯有病率」とした。

### (2) 精神障害の重症度

DSM-IV診断は、重症、中等症、軽症に分類された。重症の疾患は、I型双極性障害または身体依存のある物質依存障害、精神障害と関係した自殺未遂、疾患ごとのセクションにおけるSheehan Disability Scales (SDS)で評価された社会生活機能のうち2つ以上の領域で重度の機能障害が認められたか、またはGlobal Assessment of Functioning (GAF)で50以下の全般的な機能障害が報告された場合とした（WHO World Mental Health Survey Consortium 2004）。重症と判定されなかった対象者は、いずれかの領域でSDSが中等症に低下しているか、対象者が身体依存のない物質依存障害を持っている場合に、中等症と判定された。これ以外の全ての疾患は軽症と判定した。

### (3) 相談・受診行動

心の健康問題（アルコール・薬物問題のある場